

# 彙報

会長 田 窪 行 則

## ——常任委員会——

### 2018年度第2回常任委員会

日 時：2018年10月20日(土)13:00～17:00

場 所：上智大学四谷キャンパス 2号館7階言語学専攻共用室

出席者：田窪行則（会長）、江口 正、小野尚之、菊澤律子、桐生和幸、千田俊太郎、中谷健太郎、福井直樹、米田信子、渡辺己（以上、常任委員）、有田節子（事務局局長）

オブザーバー：井上 優（編集委員長）、山越康裕（大会運営委員長）、金城由美子、早田清冷（以上事務局委員）

（欠席：久保智之、野田尚史 常任委員、原田なをみ 広報委員長、宮本陽一 夏期講座委員長）

#### [報告事項]

#### （1）今期の組織・役員について

・今期の組織・役員が資料によって確認された。

#### （2）今後の大会開催予定について

・以下の予定が報告された。

第157回大会（2018年秋季大会）：2018年11月17～18日、京都大学（大会実行委員長：吉田和彦氏）

第158回大会（2019年春季大会）：2019年6月22～23日（予定）、一橋大学（大会実行委員長：庵功雄氏）

第159回大会（2019年秋季大会）：（日程未定）、名古屋学院大学（大会実行委員長：今仁生美氏）

第160回大会（2020年春季大会）：（日程未定）、早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）

第161回大会（2020年秋季大会）：（日程未定）、東北学院大学（大会実行委員長：豊島孝之氏）

第162回大会（2021年春季大会）：（日程未定）、神奈川大学（大会実行委員長：片岡喜代子氏）

第163回大会（2021年秋季大会）：（日程未定）、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）

#### （3）各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

#### （4）言語系学会連合からの報告

・7月16日（月）に運営委員会が行われたこと、11月10日（土）に意見交換会、2019年2月に公開特別シンポジウムを開催予定であることが報告された。

#### （5）事務局からの報告

1. 大阪北部地震・西日本豪雨・北海道胆振東部地震の被災者に対し、会費免除を実施する。申請期間は2019年3月31日（日）までとする。

2. 会費滞納者への督促について

昨年度と同様、常任委員による督促を含め様々な方法で督促を行う予定である。

3. 2019年度「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」募集について今年度の募集要項を確認した。

#### （6）外部団体の活動への協力について

・国立民族学博物館 国際シンポジウム「フィジー諸語と地理情報システム、および博物館展示への応用」（2018年9月20日）、「手話言語と音声言語に関する民博フェスタ2018/SSL12018」（2018年9月28日～30日）、文化庁「危機的な状況にある言語・方言サミット」（2018年11月24日）の協賛が報告された。継続分に関しては会長、事務局長の判断により、常任委員会での審議は省略する。

#### （7）80周年記念事業について

・『日本言語学会80周年の歩み』が完成後、学会ホームページにてダウンロードによる配信を行うことが報告された。

#### （8）夏期講座における事件への対応について

・受講学生より講義中に他の受講生から身体を触られたとの訴えがあり、夏期講座委員ならびに夏期講座実行委員が対応を行ったこと、会長・事務局局長が今後の対

応について弁護士に相談を行ったことが報告された。

[審議事項]

- (1) 2019年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化)の応募について
  - ・準備中の計画調書について加筆・修正内容を検討し、引き続き修正を行った後申請を行うことを承認した。
- (2) 大会発表要旨(学会ホームページ、『言語研究』掲載用)の廃止検討について
  - ・発表者の原稿提出、大会運営委員会による編集作業が煩雑であり、予稿集電子化に伴い『言語研究』への大会発表要旨掲載の必要性が低下したことから、2019年度春季大会より廃止することを承認した。
- (3) 聴覚障害を有する会員への支援について
  - ・第157回大会での2件の手話通訳支援申込みについて承認した。「聴覚障害を有する会員の支援に関する申し合わせ」の改定について、継続審議とすることを決定した。
- (4) 夏期講座2020について
  - ・2020年度夏期講座は神戸大学にて8月下旬に実施、実行委員長は田中真一氏(神戸大学)とすることを決定した。
- (5) 倫理規程・行動規範の整備のためのワーキングの設置について
  - ・夏期講座における事件を受けて、早期に倫理規程・行動規範制定を行うためのワーキングを設置することおよびその構成員を決定した。
- (6) ハラスメント防止に向けた声明文の制定について
  - ・声明文の文言について検討し、評議員会で承認を求めることを決定した。
- (7) 評議員選挙の選出方法について
  - ・評議員の地区別の定数割り当てについては、継続審議とした。

——評議員会——

2018年度第2回評議員会

日時: 2018年11月17日(土)10:00~12:30  
 場所: 京都大学吉田キャンパス 文学部校舎地下会議室

出席者: 田窪行則(会長), 小野尚之, 小泉政利, 後藤 斉, 那須川訓也, 井上 優, 生越直樹, 風間伸次郎, 河内一博, 北原久嗣, 窪園晴夫, 小林正人, 野田尚史, 長谷川信子, 早津恵美子, 福井直樹, 松本 曜, 渡辺 己, 江畑冬生, 呉人 恵, 佐久間淳一, 新田哲夫, 堀江 薫, 有田節子, 梶 茂樹, 金水 敏, 佐々木冠, 定延利之, 千田俊太郎, 林 範彦, 益岡隆志, 宮本陽一, 吉田和彦, 吉田 豊, 桐生和幸, 塚本秀樹, 辻 星児, 宮崎和人, 青木博史, 江口 正, 久保智之(以上, 評議員 40名)

委任状: 29名

オブザーバー: 上野善道(顧問), 上山あゆみ, 加藤重広(以上, 会計監査委員), 山越康裕(大会運営委員長), 原田なをみ(広報委員長), 金城由美子, 早田清冷(以上, 事務局委員)

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
  - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
  - ・以下の予定が報告された。
  - 第158回大会(2019年春季大会): 2019年6月22~23日, 一橋大学(大会実行委員長: 庵功雄氏)
  - 第159回大会(2019年秋季大会): (日程未定), 名古屋学院大学(大会実行委員長: 今仁生美氏)
  - 第160回大会(2020年春季大会): (日程未定), 早稲田大学(大会実行委員長: 酒井弘氏)
  - 第161回大会(2020年秋季大会): (日程未定), 東北学院大学(大会実行委員長: 豊島孝之氏)

- 第162回大会(2021年春季大会):(日程未定), 神奈川大学(大会実行委員長:片岡喜代子氏)
- 第163回大会(2021年秋季大会):(日程未定), 沖縄国際大学(大会実行委員長:西岡敏氏)
- (3) 各種委員会からの報告
- ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 言語系学会連合からの報告
- ・4月8日(水)に2017年度会計監査が行われたこと, 7月16日(月)に運営委員会が行われたこと, 11月10日(土)に意見交換会, 2019年2月に公開特別シンポジウムを開催予定であることが報告された。
- (5) 事務局からの報告
1. 大阪北部地震・西日本豪雨・北海道胆振東部地震の被災者に対する会費免除について  
現在までに大阪北部地震について3名, 西日本豪雨について2名の免除を行った。
  2. 2019年度「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」募集について  
広く応募を募るため, 今年度はすでに募集を開始した。
- (6) 聴覚障害を有する会員への支援について
- ・今大会で2件の手話通訳の支援を行うことが報告された。
- (7) 2019年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化)の応募について
- ・今年度の計画調書では, 英語論文執筆アシスト制度の設置を加えて応募することが報告された。
- (8) 80周年記念事業について
- ・『日本語学会80年の歩み』を発行, 学会ホームページに公開したことが報告された。冊子は田窪行則会長及び会員から寄せられたエッセイと最近30年間の略年譜(1988-2018)を含む。同時に1988年の『日本語学会50年の歩み』を電子化し, 学会ホームページに公開した。
- (9) 夏期講座における事件への対応について

- ・受講学生より講義中に他の受講生から身体を触られたとの訴えがあり, 夏期講座委員ならびに夏期講座実行委員が対応を行ったこと, 学会として対応策を講じる方針であることが報告された。

(10) 外部団体の活動への協力について

- ・国立民族学博物館 国際シンポジウム「フィジー諸語と地理情報システム, および博物館展示への応用」(2018年9月20日), 「手話言語と音声言語に関する民博フェスタ2018/SSLJ2018」(2018年9月28日~30日), 文化庁「危機的な状況にある言語・方言サミット」(2018年11月24日)の協賛が報告された。

[審議事項]

- (1) 大会発表要旨(学会ホームページ, 『言語研究』掲載用)の廃止について【別記1】
- ・2019年度春季大会より大会発表要旨(学会ホームページ, 『言語研究』掲載用)を廃止し, 大会発表規程および大会発表応募要旨作成要項を改訂することを承認した。ウェブに公開された予稿集の永続性について何らかの措置が必要か今後検討を行う。
- (2) 夏期講座2020について
- ・2020年度夏期講座は神戸大学にて8月下旬に実施, 実行委員長は田中真一氏(神戸大学)とすることを決定した。
- (3) 聴覚障害を有する会員への支援に関する申し合わせについて
- ・「聴覚障害を有する会員の支援に関する申し合わせ」において, 手話通訳費を国立研究機関と同等の金額に改定することを決定した。
- (4) 倫理規程・行動規範の整備のためのワーキングの設置について
- ・夏期講座における事件を受けて, 早期に倫理規程・行動規範制定を行うためのワーキングを設置することおよびその構成員を決定した。
- (5) ハラスメント防止に向けた声明文の制定について【別記2】
- ・声明文の文言について検討し, 学会ホー

- ムページ等で周知することを決定した。
- (6) 評議員選挙の選出方法について
- ・評議員の地区別の定数割り当てについては、継続審議とした。
- (7) 言語学オリンピック支援について
- ・高校生を対象とした言語学オリンピックについて、日本国際言語学オリンピック委員会から支援の要請があり、支援を行うかどうかについて今後検討を行うこととした。

——編集委員会——

- ・『言語研究』158号(2020年9月)の特集テーマを「日本語方言の形態音韻論」に決定した。

——大会運営委員会——

2018年度第2回大会運営委員会

日時：2018年9月8日(土) 11:00～16:00  
 場所：京都大学 吉田キャンパス  
 出席者：山越康裕(大会運営委員長)、伊藤さとみ、尾谷昌則、小野 創、金 善美、成田広樹、堀 博文、宮地朝子(大会運営委員)

[報告事項]

- (1) 第157回大会(京都大学)に関する準備状況が大会運営委員長より報告された。

[審議事項]

- (1) 第157回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表56件(応募97件、受理96件)、ポスター発表4件(応募8件)、ワークショップ4件(応募4件)を採択することとした。後にポスター発表1件の発表辞退があった。ポスター発表の辞退は大会数日前であったため、学会HP上のプログラムの差し替えおよび当日の掲示を行った。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は8会場7本(移動10分)とし、各発表の振り分け、会場担当の委員ならびに

司会者候補を決定した。

- (3) 大会実行委員長より提案されたシンポジウム・ワークショップ・口頭発表・ポスター発表会場、受付、書店展示、保育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設定について検討を行い、決定した。
- (4) 大会発表要旨(『言語研究』および学会HP掲載用)の廃止の是非について議論し、発表者、大会運営委員会、事務支局それぞれの負担軽減のため廃止が望ましいという意見で一致した。
- (5) 聴覚障がい者が口頭発表を行う際には、経過時間をカードで知らせるよう配慮することとした。
- (6) 発表応募フォームの改善を事務局、事務支局とともに検討した。

——広報委員会——

- ・学会ウェブサイトの学会からのお知らせ(大会情報、論文賞、発表賞など)や学会関連情報(公募情報、研究会情報など)を随時更新した。
- ・大会予稿集がスマートフォンで閲覧しても表示が乱れないよう、ウェブサイトへの掲載の仕方を調整した。
- ・創立80周年記念事業の一環である『日本言語学会80年の歩み』をウェブサイトにて公開した。
- ・夏期講座2018において発生した迷惑行為事件をうけた緊急声明をウェブサイトに掲載した。
- ・大会終了後、次の大会の情報を掲載する際に、ウェブサイト内の情報を複数箇所更新する必要がある。どの箇所をどのタイミングで更新するか明確ではなかったため、大会終了後のウェブサイト更新の手続きを再考し、手順を整えた。

——夏期講座委員会——

- ・夏期講座2018は、8月20日(月)から8月25日(土)まで東京外国語大学・府中キャンパスで開催された。参加者は261名で、

好評のうちに終了することができた。なお、5日目の8月24日（金）には、日本語学会80周年特別講演として上野善道先生（東京大学名誉教授、日本語学会元会長）に「服部四郎と日本祖語」という題目でご講演いただいた。また、今回は、会員の参加費を3,000円割引したが、夏期講座2018への参加を契機に入会した会員は1名に留まった。

- ・夏期講座2020は、神戸大学で開催する。開催期間、開講科目、担当講師等の詳細は、158回大会に合わせて開催予定の委員会で決定する。

### ——学会賞選考委員会——

#### 2018年度第1回学会賞選考委員会

2018年8月31日から9月4日にメール審議。これに先立つ大会発表賞選考部会の審議は、4月16日から8月20日にメール審議。

[審議事項]

(1) 第156回大会発表賞について  
江口大会発表賞選考部会長より原案が提示され、審議の結果、3名の受賞者を決定した（審査対象17件）。

#### 2018年度第2回学会賞選考委員会

2018年9月7日にメール審議。これに先立つ論文賞選考部会の審議は、5月13日から9月5日にメール審議。

[審議事項]

(1) 2018年度論文賞について  
福井論文賞選考部会長より原案が提示され、審議の結果、1名の受賞者を決定した（2016年度と2017年度の2年間に刊行された『言語研究』（150号、151号、152号、153号）掲載論文のうち、審査対象9編）。

#### 2018年度第3回学会賞選考委員会

2019年2月17日から2月19日にメール審議。これに先立つ大会発表賞選考部会の審議は、1月18日から2月14日にメール審議。

[審議事項]

(1) 第157回大会発表賞について  
江口大会発表賞選考部会長より原案が提示され、審議の結果、3名の受賞者を決定した（審査対象19件）。

謝 辞

第156回大会および第157回大会発表賞、2018年度論文賞の選考にあたり、多くの会員に審査員として御協力いただきました。以下に、御承諾をいただいた方々のお名前を掲載いたします（敬称略、五十音順）。

[大会発表賞]

青柳 宏	荒川慎太郎	有田節子
石原由貴	磯部美和	伊藤さとみ
伊藤たかね	上田 功	上山あゆみ
内堀朝子	尾谷昌則	越智正男
小野尚之	小野 創	片岡喜代子
河内一博	岸田泰浩	岸本秀樹
木部暢子	キャット, アダム	
桐生和幸	金水 敏	久保智之
藏藤健雄	栗林 裕	郡司隆男
小泉政利	古賀裕章	小林正人
佐々木冠	佐野まさき	澤田英夫
下地理則	田中真一	谷口一美
田村幸誠	塚本秀樹	
中川 裕 (東京外大)		中谷健太郎
中村ちどり	中村 渉	西山國雄
新田哲夫	長谷川信子	
ブガエワ, アンナ		福盛貴弘
藤代 節	堀江 薫	堀 博文
牧 秀樹	松井理直	松浦年男
松岡和美	松本 曜	宮地朝子
宮本陽一	山越康裕	山田英二
由本陽子	吉田夏也	吉村紀子
渡辺 己		

[論文賞]

庵 功雄	井上 優	桐生和幸
佐々木冠	福井直樹	前田広幸
松本 曜		

以上

**【別記1】大会発表要旨の廃止関係  
大会発表規程の改定：第7条の削除**

○日本言語学会 大会発表規程

《旧》

1. 日本言語学会（以下「本学会」）の大会発表は、(1) 口頭発表、(2) ポスター発表、(3) ワークショップの3種類を設ける。
2. 本学会の会員は、大会発表に応募することができる。共同発表は、筆頭発表者が会員であれば応募できる。ワークショップは、企画者と司会者が会員であれば応募できる。
3. 大会発表に応募する際に、応募時の年度までの会費が未納の場合は発表応募を受け付けない。
4. 発表内容は、未発表であり、かつ発表応募時において本学会の大会以外の発表応募や投稿を行っていないものに限る。採用通知後にこの条件が満たされていないことが判明した場合は、採用を取り消す。また、大会予稿集掲載後に発表が取り消された大会予稿集原稿は、大会予稿集から削除する。
5. 大会発表の応募および大会における発表は、大会運営委員会が定める大会発表要項に基づいて行う。
6. 大会発表の採否は大会運営委員会が決定する。
7. 学会ホームページおよび『言語研究』掲載の大会発表要旨は、提出された時点で発表者全員が「日本言語学会著作物取扱規程」を承諾したものとす。

(2015年11月28日修正案可決)

(2016年6月25日修正案可決)

《新》

1. 日本言語学会（以下「本学会」）の大会発表は、(1) 口頭発表、(2) ポスター発表、(3) ワークショップの3種類を設ける。
2. 本学会の会員は、大会発表に応募することができる。共同発表は、筆頭発表者が会員であれば応募できる。ワークショップは、企画者と司会者が会員であれば応募できる。
3. 大会発表に応募する際に、応募時の年度までの会費が未納の場合は発表応募を受け付けない。
4. 発表内容は、未発表であり、かつ発表応募時において本学会の大会以外の発表応募や投稿を行っていないものに限る。採用通知後にこの条件が満たされていないことが判明した場合は、採用を取り消す。また、大会予稿集掲載後に発表が取り消された大会予稿集原稿は、大会予稿集から削除する。
5. 大会発表の応募および大会における発表は、大会運営委員会が定める大会発表要項に基づいて行う。
6. 大会発表の採否は大会運営委員会が決定する。

(2015年11月28日修正案可決)

(2016年6月25日修正案可決)

(2018年11月17日修正案可決)

## 大会発表応募要旨作成要項の改定：第7章「採択決定後の通知等」第16条第4項

《旧》

## 第7章「採用決定後の通知等」

16. 採用通知の際には以下の点を通ずる。
- (1) 発表の日時と会場（予定）
  - (2) プログラム掲載の発表題目と発表者氏名
  - (3) 応募時に申請された機器使用の可否
  - (4) 大会発表要旨（学会ホームページと『言語研究』に掲載）および予稿集原稿の作成要項，提出方法，提出期限
  - (5) 発表に際しての注意事項
17. 採用決定後の使用言語，発表題目，発表者，使用機器，ワークショップ構成の変更は認められない。
18. 筆頭発表者，ワークショップ企画者は，大会運営委員会が定める大会発表要旨作成要項，予稿集原稿作成要項に基づき，大会発表要旨および予稿集原稿を作成し，指定の期日までに学会事務支局に提出する。
19. 大会当日に発表に関する資料（ハンドアウト，追加・補足資料，正誤表，予稿集原稿などを含む）を配付することは一切認めない。
20. 発表応募要旨および予稿集原稿と大幅に異なる内容をポスターおよびプロジェクタ等で提示することは認めない。

(2007年11月24日改訂)

(2010年6月19日改訂)

(2015年6月20日改訂)

(2016年12月3日改訂)

(2017年7月3日改訂)

《新》

## 第7章「採用決定後の通知等」

16. 採用通知の際には以下の点を通ずる。
- (1) 発表の日時と会場（予定）
  - (2) プログラム掲載の発表題目と発表者氏名
  - (3) 応募時に申請された機器使用の可否
  - (4) 予稿集原稿の作成要項，提出方法，提出期限
  - (5) 発表に際しての注意事項
17. 採用決定後の使用言語，発表題目，発表者，使用機器，ワークショップ構成の変更は認められない。
18. 筆頭発表者，ワークショップ企画者は，大会運営委員会が定める大会発表要旨作成要項，予稿集原稿作成要項に基づき，大会発表要旨および予稿集原稿を作成し，指定の期日までに学会事務支局に提出する。
19. 大会当日に発表に関する資料（ハンドアウト，追加・補足資料，正誤表，予稿集原稿などを含む）を配付することは一切認めない。
20. 発表応募要旨および予稿集原稿と大幅に異なる内容をポスターおよびプロジェクタ等で提示することは認めない。

(2007年11月24日改訂)

(2010年6月19日改訂)

(2015年6月20日改訂)

(2016年12月3日改訂)

(2017年7月3日改訂)

(2018年11月17日改訂)

予稿集原稿作成要項の改定：第1条および第3条

《旧》

《新》

1. 分量
  - 口頭発表／ポスター発表：A4判で6枚以内（厳守）。
  - ワークショップ：企画者はA4判で2枚以内（厳守），発表者は1発表につきA4判で6枚以内（厳守）。

（可能な限り偶数ページとする。予稿集印刷時には左ページ始まりになるので、図表等を見開きで掲載する場合は注意すること。）
2. 使用言語
 

日本語発表の場合は日本語，英語発表の場合は英語で作成する。
3. 書式
  1. 発表題目，氏名を1ページ目の上に入れる。
  2. 左右に2センチ，上に2センチ，下に3センチの余白を設ける。
  3. ページ番号は，入れないこと。
  4. その他は自由。字数制限もなし。
5. 原稿はそのままウェブ上で公開される予稿集に組み込まれる。校正は行わない。
6. 本文の文字のサイズは10ポイントから12ポイントを目安とする。行間等にも注意すること。
7. 適切にフォントを埋め込んだPDFファイルを作成し，文字化けが生じないことを確認した上で提出すること。
8. 予稿集を極端に大きなファイルサイズにしないため，写真などの画像ファイルを埋め込む際には可能な範囲でファイルサイズを小さくする。

(略)

(2015年11月28日改訂)

1. 分量
  - 口頭発表／ポスター発表：A4判で7枚以内（厳守）。
  - ワークショップ：企画者はA4判で2枚以内（厳守），発表者は1発表につきA4判で6枚以内（厳守）。
2. 使用言語
 

日本語発表の場合は日本語，英語発表の場合は英語で作成する。
3. 書式
  1. 発表題目，氏名を1ページ目の上に入れる。
  2. 左右に2センチ，上に2センチ，下に3センチの余白を設ける。
  3. ページ番号は，入れないこと。
  4. 口頭発表／ポスター発表については，発表題目，氏名に続けて400字（英語の場合は120語）程度の要旨を記載する。
  5. その他は自由。字数制限もなし。
6. 原稿はそのままウェブ上で公開される予稿集に組み込まれる。校正は行わない。
7. 本文の文字のサイズは10ポイントから12ポイントを目安とする。行間等にも注意すること。
8. 適切にフォントを埋め込んだPDFファイルを作成し，文字化けが生じないことを確認した上で提出すること。
9. 予稿集を極端に大きなファイルサイズにしないため，写真などの画像ファイルを埋め込む際には可能な範囲でファイルサイズを小さくする。
10. 原稿は原則モノクロで作成する。ただし図表のみカラーの使用を認める。

(略)

(2015年11月28日改訂)

(2018年11月17日改訂)



【別記 2】

## 声明文

日本言語学会は、言語の科学的研究の進歩・発展に寄与することを目的として設立され、今年で 80 周年を迎えます。言語研究に関心を持つすべての人に開かれた学会として、年に 2 回の研究大会、機関誌の刊行、そして 1999 年より隔年で夏期講座を開催してきました。

今年で 11 回目となる夏期講座が 8 月に東京都内の大学で開催されましたが、そこで、重大な出来事がありました。ある講義の教室内で、受講生の女性が背後に座っている別の受講生の男性から臀部を複数回継続的に触られたという訴えがあったのです。その後、その女性は精神的に深刻なダメージを受け、受講が続けられなくなりました。

被害に遭われた方に、講座の主催者として心よりお詫びを申し上げます。

学会が主催する講座で、このような事態は決して起こってはならないことです。日本言語学会は、学会が主催する大会や講座等で二度とこのようなことが起こらないよう、速やかに学会としての対応策を講じる所存です。

2018 年 11 月 17 日  
日本言語学会 会長  
田窪 行則

第 157 回大会

期日 2018 年 11 月 17 日 (土)・18 日 (日)

会場 京都大学

日本語学会 80 周年記念特別公開シンポジウム (公開) 11 月 18 日 (日) 13:20 ~ 16:40

(百周年時計台記念館 1 階百周年記念ホール)

「新村出初代会長から 80 年一言語学はいま?そしてこれから?」

- |       |              |                            |
|-------|--------------|----------------------------|
|       |              | 司会: 吉田 和彦<br>千田俊太郎         |
| (S 1) | 新村出とフィールド言語学 | コメンテーター: 米田 信子             |
| (S 2) | 新村出と歴史言語学    | アダム・キャット<br>コメンテーター: 小林 正人 |
| (S 3) | 新村出と言語理論     | 定延 利之<br>コメンテーター: 野田 春美    |

口頭発表

—第 1 日 (11 月 17 日 (土)) 13:00 ~ 17:40—

◦ A 会場

- |       |         |  |                |
|-------|---------|--|----------------|
| (A 1) | 13:00 ~ | 現代中国語の 2 種類の複雑述語“来 V”構文と“V 来”<br>構文の相違点        | 朱 茜            |
| (A 2) | 13:40 ~ | 中国語動量詞が数える個体と集合イベント                            | 王 丹楓           |
| (A 3) | 14:20 ~ | 中国語の動詞重複分裂文における ROOT 移動仮説                      | 胡 亜敏           |
| (A 4) | 15:00 ~ | ベトナム語話者による日本語漢語理解における日越<br>両言語の語彙使用頻度と音韻類似性の影響 | ホアーン ティ ラン フォン |
| (A 5) | 15:50 ~ | ハイブリッド言語としての黒龍江省朝鮮語                            | 高木 丈也          |
| (A 6) | 16:30 ~ | 分裂文から見る日韓のコピュラの特徴                              | 金 智賢           |
| (A 7) | 17:10 ~ | 新聞における日・韓外来語の使用傾向                              | 林 廷修           |

◦ B 会場

- |       |         |  |   |
|-------|---------|--|---|
| (B 1) | 13:00 ~ | 再分析と依存要素間距離の交互作用—自己ベース読<br>文実験による検証—   | 岸山 健<br>広瀬 友紀<br>峰見 一輝<br>多田 明佳           |
| (B 2) | 13:40 ~ | 形態統語的逸脱文に対する適応効果—事象関連電位<br>を指標として—   | 矢野 雅貴<br>諏訪園秀吾<br>荒生 弘史<br>安永 大地<br>大石 衡聴 |
| (B 3) | 14:20 ~ | Effects of the inferred affectedness factor in the<br>next-mention preferences in Japanese | Kentaro NAKATANI<br>Shoko SHIDA           |
| (B 4) | 15:00 ~ | 単語埋め込みに基づくサブライザルのモデル化  | 浅原 正幸                                     |
| (B 5) | 15:50 ~ | ジンポー語における動詞連続構文の制約   | 倉部 慶太                                     |
| (B 6) | 16:30 ~ | チワン語龍老方言における声調の変調—2 音節連続<br>語を中心に—   | 黄 海洋                                      |

- (B 7) 17:10 ~ ベトナム語の機能語 *của, sự, không, bị* の文法化過程の検証—16 ~ 19 世紀の文献から— 鷺澤 拓也
- 。 C 会場
- (C 1) 13:00 ~ 自得型テモラウ文の意味・用法について 朱 冬冬
- (C 2) 13:40 ~ 受身・可能とその周辺構文によるヴォイス体系の対照言語学的考察—古代日本語とスペイン語— 志波 彩子
- (C 3) 14:20 ~ 指示詞の有標的な用法—類型論の確立を目指して— 孟 鷹  
大島 デイヴィッド 義和
- (C 4) 15:00 ~ 「ビールに行こう」?—移動の目的を明示する表現に関するチェコ語と日本語の対照 浅岡健志朗
- (C 5) 15:50 ~ 日本手話, 台湾手話, 韓国手話の語における意味の変化 相良 啓子
- (C 6) 16:30 ~ 大阪泉州方言における「ら」の複数性 大島 一
- (C 7) 17:10 ~ 宮古語の動詞形態論における拡張語幹:あるべきか, あらざるべきか 林 由華  
ケナン・セリック
- 。 D 会場
- (D 1) 13:00 ~ 促音の知覚における先行母音・後続母音持続時間の影響:鹿児島方言若年層の場合 小林 祐貴  
竹安 大
- (D 2) 13:40 ~ 北琉球沖縄語伊江方言の破裂音 青井 隼人
- (D 3) 14:20 ~ 出雲仁多方言の母音をめぐる音変化について 平子 達也
- (D 4) 15:00 ~ 『リグ・ヴェーダ』の韻律における印欧祖語の喉音の反映と方言差 塚越 袖季
- (D 5) 15:50 ~ 中国語・内蒙古語・モンゴル語の語頭閉鎖音における VOT の差異 植田 尚樹
- (D 6) 16:30 ~ An interaction between voicing and tone in Drǎnjongke fricatives Céleste GUILLEMOT  
Seunghun J. LEE
- (D 7) 17:10 ~ Accentuation in Tokyo and Kyoto Japanese: Toward a unified account Yū TANAKA
- 。 E 会場
- (E 1) 13:00 ~ スロッピー解釈の三つの出自 森山 倭成
- (E 2) 13:40 ~ 前置詞残留からみる削除現象の派生 白井 悠香
- (E 3) 14:20 ~ Argument Ellipsis of Focused Phrase Hideaki YAMASHITA
- (E 4) 15:00 ~ Leftward and rightward clause movement in Mongolian Shulun  
Hideki MAKI  
Megumi HASEBE  
Lina BAO  
Yuta SAKAMOTO
- (E 5) 15:50 ~ 東京方言における主格属格交替現象と総記のガに関して 佐久間 篤
- (E 6) 16:30 ~ 日本語の wh 構文の考察:島の制約と wh 句の構造 中島 優
- (E 7) 17:10 ~ 敬語表現の統一的説明に向けて 大野 公裕

。 F 会場

- (F 1) 13:00 ~ 線条的類像性—認知類型論的アプローチ 鍋島弘治朗  
堀江 薫  
水本 篤  
ブラシャント・バルデシ  
ジェブカ・ラファウ  
北野 浩章  
堀口 大樹  
古本 真  
オ・ヨンミン  
エルチュルク・ダムラ
- (F 2) 13:40 ~ 日本語オノマトペの統語転換現象に対する認知言語学的アプローチ—副詞・動詞・形容動詞が名詞になる場合— 朴 智娟
- (F 3) 14:20 ~ Typo, thinko, scanno : エラーを表す -o の記述 萩澤 大輝
- (F 4) 15:00 ~ 英語の *better off* 構文について 大谷 直輝
- (F 5) 15:50 ~ インターフェイスにおけるラベルの働きについて 林 慎将
- (F 6) 16:30 ~ 他動詞虚辞構文と主語倒置構文 : ラベル付けを排した素性—一致理論による分析 岡 俊房
- (F 7) 17:10 ~ Can “determinacy + PIC” explain descriptions of remnant movement asymmetries Hisatsugu KITAHARA  
Samuel D. EPSTEIN  
T. Daniel SEELY

。 G 会場

- (G 1) 13:00 ~ 不定代名詞束縛における再構築効果ととりたて詞「も」の分析 片岡 恋惟  
大野 公裕
- (G 2) 13:40 ~ ノとコト再考 : 主文述語の新たな意味分類に向けて 山田 彬堯  
窪田 悠介
- (G 3) 14:20 ~ 前提投射の実例のツリーバンクによる検索 窪田 悠介  
峯島 宏次
- (G 4) 15:00 ~ 所有を表す have got における発話行為性 日高 俊夫  
今西 真弓
- (G 5) 15:50 ~ Sublexical modality in permission and obligation causative Yusuke YAGI
- (G 6) 16:30 ~ A contrastive study on the asymmetry of nominative and accusative case drops in Japanese and Korean Shaoyun YU  
Katsuo TAMAOKA
- (G 7) 17:10 ~ What ‘-*nakereba naranaï*’ should and must be Shun IHARA

。 H 会場

- (H 1) 13:00 ~ アミ語の -ay における名詞、動詞、認識モダリティの関連 今西 一太
- (H 2) 13:40 ~ オリヤ語における、2つの人称・格制約 山部 順治
- (H 3) 14:20 ~ ペルシア語の焦点構文におけるコピュラの生起制限 野元 裕樹  
大久保 弥
- (H 4) 15:00 ~ クブサビニイ語の名詞の定性の区別 : Dryer の定性の標識の類型論的枠組みでの分析 河内 一博

- (H 5) 15:50 ~ ケチュア語アヤクーチョ方言の示差的格標示が示す 諸隈 夕子  
対比性
- (H 6) 16:30 ~ トゥバ語における疑問詞疑問接辞の否定文での用 江畑 冬生  
法: egophoricity からの説明
- (H 7) 17:10 ~ ドウンシャン語のコピュラにおける共時的考察 外賀 葵

## ワークショップ

—第2日(11月18日(日))10:00~12:00—

## 。ワークショップ1

- (W 1) 移動経路の種類とそのコード化: 通言語的ビデオ実験による移 企画者・司会者: 松本 曜  
動表現の類型論再考
- (W 1-1) フランス語移動表現における経路表示と類型論 守田 貴弘
- (W 1-2) クブサビニ語とシダーマ語における通言語的傾向と類型タイ 河内 一博  
プの現れ
- (W 1-3) タガログ語移動表現の経路表示 長屋 尚典
- (W 1-4) タイ語移動表現の経路表示 高橋 清子

## 。ワークショップ2

- (W 2) 叙述類型論の諸問題 企画者: 岩男 考哲, 益岡 隆志  
司会者: 益岡 隆志
- (W 2-1) 属性の起源 三原 健一
- (W 2-2) 「評価属性」をめぐって 岩男 考哲
- (W 2-3) 属性叙述におけるテンス・アスペクト体系 鈴木 彩香
- (W 2-4) 複合語形成における事象から属性へのシフト—「X+動詞連用 由本 陽子  
形」型複合名詞を中心に—

## 。ワークショップ3

- (W 3) 名詞構文を巡る諸問題 企画者・司会者: 江口 清子
- (W 3-1) ハンガリー語の所有接辞について 江口 清子
- (W 3-2) 日本語同格名詞句から見る名詞句の機能について 眞野 美穂
- (W 3-3) シンハラ語の名詞補文節について 岸本 秀樹

## 。ワークショップ4

- (W 4) 日本語の呼びかけイントネーション 企画者・司会者: 窪菌 晴夫
- (W 4-1) 東京方言の呼びかけイントネーション 溝口 愛
- (W 4-2) 鹿児島方言と甕島方言の呼びかけイントネーション 窪菌 晴夫
- (W 4-3) 小林方言の呼びかけイントネーション 平田 秀

## ポスター発表

—第2日(11月18日(日))11:30~12:50—

- (P 1) 西夏文字における, いくつかの左下要素の筆画について 荒川慎太郎
- (P 2) 日本語量化詞「ほとんど」の疑似量化解釈—ガーデンパス現象 井上 雅勝  
による実証的検討— 藏藤 健雄  
松井 理直
- (P 3) 伊平屋方言の動詞・形容詞のアクセントについての考察 カルリノ・サルバトーレ
- (P 4) 日本語学習者による遊離数量詞の解釈の習得 大熊富季子

◇退 会

国内通常会員：7名  
 在外通常会員：1名  
 国内学生会員：2名  
 国内団体会員：2名  
 13名

◇入 会

国内通常会員：30名  
 在外通常会員：2名  
 国内学生会員：53名  
 85名



日本語学会学会賞報告

第156回大会（2018年春季，東京大学）の大会発表賞（3件）

・倉部慶太氏

「ジンポー語における語頭鼻音の成節性」

シナ・チベット語族の系統内音韻類型論にとって重要な「NC連続」の「N」の音節性の問題に関して、ジンポー語のデータを基に考察し、Nが成節的であるという結論を説得的に導き出した。ジンポー語の音韻事実の精緻な記述が進められた点、従来の Tone-Bearing Unit test に加えて5つの証拠を示した点に貢献が認められる。質疑ではこれらの証拠の重要度の違いについて十分に明らかにできなかったが、フィールド調査で得た一次資料を用いて多角的に分析したことは高く評価される。

・坂井美日氏

「九州方言における主語標示の使い分けと動作主性」

熊本・博多・甕島の主語標示格助詞「の」対「が」の使用区別について、近年の類型論的研究の成果を踏まえて「動作主性」の視座からの分析を展開したもので、説得力のある内容となっている。従来の観点「尊卑性」を「動作主性」の中に取り込もうとする議論は今後の方向性を示すものとして高く評価できる。予稿集、発表の仕方ともに論点が整理されており、質疑応答も活発で応答内容も適切であった。

・山田彬亮氏

“A Modal Approach to no-clauses in Japanese”

日本語のノ補文とそれを埋め込む述語の関係について形式意味論的な説明を与えようとした研究で、ノ補文は出来事の集合を外延として持つのに対し、述語がモーダルベースを提供するという分析を示している。コーパスを用いて述語の分類を行ない、それを理論に反映させた点が特徴的で、「待つ」の意味論にモダリティを取り込むアイデアには説得力があった。プレゼンテーションは明瞭で、質疑応答も誠実になされていた。

2018年度の論文賞（1件）

・POPPE, Clemens 氏

“Iambic Feet in Japanese: Evidence from the Maisaka Dialect” 『言語研究』150号（2016年9月）

本論文は、韻脚を導入することにより舞阪方言におけるアクセントの体系的空白とアクセント交替を体系的かつ簡潔に分析することに成功している。弱強格が基本的な方言で強弱格が派

生することについても Non Finality という一般性のある制約によって説明することに成功している。琉球語諸方言に関しては韻脚を用いた分析がすでに提案されているが、韻脚の概念が本土方言の分析に有効であることを示したことは新規性があり、今後の記述研究にもインパクトを持つものと考えられる。優れた分析と発展性から本論文を日本言語学会論文賞に推薦する。

#### 第 157 回大会（2018 年秋季、京都大学）の大会発表賞（3 件）

##### ・青井隼人氏

「北琉球沖縄語伊江方言の破裂音」

沖縄語伊江方言をはじめとする北琉球のいくつかの言語では、閉鎖音に 3 つの系列が認められ、これまではその対立の一部に喉頭の緊張が関わっているとされてきた。現地調査によってこれらの方言の音響特性を調査した結果、喉頭の緊張に関わる音響特性は認められず、有声性および帯気性のみで実現されていることを示した。ほかの要因についての考慮や先行研究の観察に対する解釈も必要になるが、声門閉鎖について内観のみならず音響特性などを用いて研究する必要があることがわかりやすく説明され、音韻研究としても示唆的なものであった。

##### ・江畑冬生氏

「トゥバ語における疑問詞疑問接辞の否定文での用法：egophoricity からの説明」

トゥバ語には疑問詞疑問文をはじめ反語文、譲歩節、相関構文などに現れる疑問詞疑問接辞があるが、「ない」を述語とする平叙文にも同接辞が現れることがある。その理由について、同系のサハ語の疑問詞疑問接辞とも対照して考察し、自己性 (egophoricity) から統一的に説明可能だと主張した。扱うテーマに斬新さがあり、同種の研究を促す契機となり得る点が高く評価できる。自己性による分析の正当化などに課題もあるが、現象を分かりやすく丁寧に説明しており、質疑に対する返答からも豊富な言語データを発表者が有していることが窺われた。

##### ・平子達也氏

「出雲仁多方言の母音をめぐる音変化について」

島根県仁多方言で想定される種々の音変化の条件を整理し、それらが起きた相対年代を推定した発表である。本土方言の音韻の詳しい研究が日琉祖語を視野にいれた比較言語学的研究につながるという主張がなされ、今後の研究に示唆するところがあった。個々の分析では説得力が十分でないと思われる部分もあったが、全体として発表の仕方、質疑応答は水準を上回るものであった。

◇『言語研究』第 154 号の p.193 の柱に誤りがありましたので、下記の通り訂正いたします。

(誤) 言語研究 (*Gengo Kenkyu*) 154: 193–204 (2019)

(正) 言語研究 (*Gengo Kenkyu*) 154: 193–204 (2018)

## 2018 年度役員

## 【会長】

田窪行則

## 【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 国広哲弥,  
窪蘭晴夫, 柴谷方良, 早田輝洋, 松本克己

## 【常任委員】

江口正, 小野尚之, 菊澤律子, 桐生和幸,  
久保智之, 千田俊太郎, 中谷健太郎, 野田尚史,  
福井直樹, 米田信子, 渡辺己

## 【事務局】

有田節子(事務局長), 金城由美子, 早田清冷

## 【評議員 (70名)】

[北海道] 奥 聡, 時崎久夫, 野村益寛 [東北]  
小野尚之, 小泉政利, 後藤斉, 那須川訓也 [関東]  
庵功雄, 石井透, 伊藤たかね, 井上優,  
遠藤喜雄, 大津由紀雄, 大堀壽夫, 生越直樹,  
風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣,  
工藤真由美, 窪蘭晴夫, 小林正人, 滝浦真人,  
田中伸一, 長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史,  
長谷川信子, 林 徹, 早津恵美子, 福井直樹,  
福井玲, 松本曜, 渡辺己 [中部] 江畑冬生,  
呉人恵, 斎藤衛, 佐久間淳一, 澤田治美,  
杉崎鉦司, 玉岡賀津雄, 新田哲夫, 堀江薫,  
町田健 [近畿] 有田節子, 影山太郎, 梶茂樹,  
金水敏, 佐々木冠, 定延利之, 沈 力, 千田  
俊太郎, 林範彦, 藤代節, 益岡隆志, 宮本陽一,  
由本陽子, 吉田和彦, 吉田豊, 米田信子 [中  
国・四国] 桐生和幸, 塚本秀樹, 辻星児,  
宮崎和人, 和田学 [九州・沖縄] 青木博史,  
江口正, 狩俣繁久, 久保智之, 下地理則

## 【編集委員会】

井上優(委員長), 青柳宏, 井川壽子, 岸本秀樹,  
小林正人, 佐々木冠, 定延利之, 鍋島弘治朗,  
藤井洋子, 由本陽子, 米山聖子

## 【特別編集委員】

(未定)

## 【大会運営委員会】

山越康裕(委員長), 伊藤さとみ, 尾谷昌則,  
小野創, 金善美, 小磯花絵, 下地理則, 中村  
渉, 成田広樹, 林範彦, 堀博文, 宮地朝子

## 【広報委員会】

原田なをみ(委員長), 小泉政利, 中谷健太  
郎, 那須昭夫(日本語ページ webmaster),  
藤本真理子, 堀博文, 松浦年男(英語ページ  
webmaster)

## 【夏期講座委員会】

宮本陽一(委員長), 小野創, 田中真一, 千田  
俊太郎, 本多啓, 渡辺己

## 【学会賞選考委員会】

久保智之(委員長), 庵功雄, 江口正, 桐生和幸,  
中谷健太郎, 福井直樹, 松本曜

## 【会計監査委員】

上山あゆみ, 加藤重広